

台風 10 号 蒲郡で土砂崩れ 3 人死亡 温暖化と国土の危機への警告だ



5人が生き埋めとなり救出活動が行われた蒲郡市の土砂崩れ現場＝8月28日、筆者撮影

8月下旬に発生した台風10号は、非常に強い勢力で日本列島に接近。上陸前から各地に大雨を降らせ、愛知県蒲郡市では3人が死亡する土砂崩れが発生した。現場は土砂災害警戒区域には設定されていない緩い斜面で、崩壊の詳細なメカニズムはまだ謎だが、その被害は急激に進行する地球温暖化と国土の荒廃に対する警告を発しているようだ。

■ 長雨でリスク顕在化

土砂崩れは8月27日午後10時過ぎ、蒲郡市の中心部から約2キロ北西にある竹谷町大久古で発生した。崩落した土砂が木造2階建ての一軒家を襲い、家族5人が生き埋めになった。40代の女性2人は無事救出されたが、70代の男女と30代の男性は心肺停止の状態で見つかり、29日までに死亡が確認された。

現場は特産のミカン畑が広がるのどかな集落で、被害にあった家族もミカン農家だったという。28日に私が現場を訪れた際には、周辺100メートルほどまで規制線が張られ、その内側で消防や警察、自衛隊が救出活動に当たっていた。崩落した斜面は住宅のすぐ裏

だったが、他の斜面に比べて特別に危険な箇所には見えなかった。規制線の外の住人は「あのあたりで土砂崩れが起こったという話は今まで聞いたことがなかった。当日もそれほどひどい大雨という感じではなく、雷が鳴っていたこともあり、土砂崩れが起こっていたとは気付かなかった」と話す。

当日の蒲郡市には気象庁による大雨警報が出されず、市も避難勧告などを出していなかった。しかし、降水量は26日夜から27日夜までに138.5ミリと、平年の8月1カ月分(124.5ミリ)を超える量に達していた。長雨により思わぬリスクが顕在化したと言えるだろう。